

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第71回

ユソウボク



ユソウボク（癒瘡木）はハマビシ科に属する15メートル程の常緑広葉樹でコロンビアの沿岸部やカリブ海の諸島に自生しています。

材は樹脂（グアヤック脂）が詰まっており硬くて重く水に沈みます。硬い材はスクリューの軸受けや乳鉢、乳棒等に使われます。グアヤック脂は15、6世紀には水銀と共に梅毒の治療薬として広く用いられていましたのでその権益をめぐり争いも起こっていたようですが19世紀に入りその需要は低下し、近年はバハマで強壮薬として使用されるにとどまっています。グアヤック脂は酸化防止剤やガムベースとして、また、構成成分であるグアイオールが酸化されると色が変わるため、シアン、オゾン等の検出試薬として用いられています。以前は生薬学の教科書にも収載されていましたが、今は無く幻の生薬となりました。

本画はゾーンによる1770年代末の作品です。

